

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	24-043	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Risk of alcohol-associated liver disease in the offspring of parents with alcohol-associated liver disease: A nationwide cohort study アルコール関連肝疾患を有する両親の子供におけるアルコール関連肝疾患のリスク： 全国コホート研究</p>		
執筆者		
Jepsen P, West J, Kann AE, Kraglund F, Morling J, Crooks C, Askgaard G.		
掲載誌		
Hepatology. 2024 Aug 1;80(2):418-427. doi: 10.1097/HEP.0000000000000747.		
キーワード		PMID
肝疾患、アルコール性肝疾患、コホート研究		38156979
要 旨		
<p>背景：アルコール関連肝疾患（ALD）患者の子孫は ALD のリスクが高い可能性が考えられる。本研究では、ALD のリスクと ALD の生存率について検討した。</p> <p>方法：デンマークの全国登録（国立患者登録、死因登録簿、市民登録システム、教育登録）を用いて、1996～2018 年に ALD と診断された患者の子孫と、一般集団から 20 対 1 でマッチングさせ、親の ALD への曝露が確認された日から 2018 年まで ALD 診断について追跡した。コーディング方法の均一性を確保するため、研究期間は、国際疾病分類第 10 版（ICD-10）に従って診断がコード化された期間に限定した。統計解析は、ランダム競合リスク解析を用い、年齢別の 10 年間の ALD の絶対リスクおよび相対リスクを推定した。ALD を伴わない死亡は競合リスクイベントとみなした。ALD 診断後の生存率を、ALD を発症した比較対象者とこれらの子孫で比較するために、逆確率治療重み付けを使用して交絡因子を調整した。死亡ハザード比の推定には Cox 回帰を使用した。</p> <p>結果：それぞれ 70 万人年、1400 万人年の追跡期間中に、ALD と診断されたのは患者の子孫で 60,707 人中 385 人、一般集団において、1,213,357 人中 2,842 人であり、発症率比は 2.73（95%信頼区間：2.44-3.03）であった。死亡率については、追跡期間中に 1,405 人の子孫と比較対象者 18,610 人が死亡し、死亡率比は 1.52（95%CI：1.44～1.60）であった。</p> <p>10 年間の ALD 絶対リスクは、子孫の方が上昇が速く、ピークに達する年齢も若かった。今後 10 年以内に ALD と診断されるリスクは、子孫が 55 歳、比較対象者が 57 歳でピークに達し、これらの年齢における 10 年リスクは子孫が 1.66%（95%CI：1.16-2.30）、比較対象者が 0.81%（95%CI：0.68-0.97）であった。ALD 診断時の年齢中央値は 47.4 歳対 48.9 歳で、子孫の方が若かったが、肝硬変発症率は子孫の方が多く、60.3%対 58.7%であった。ALD 診断後の生存率は、調整ハザード比=1.03（95%CI：0.88-1.21）で、比較群と同程度だった。</p> <p>結論：ALD 患者の子孫は ALD のリスクがほぼ 3 倍高いことが示された。ただし、ALD の絶対リスクは低かった。子孫では、ALD の発症年齢が若く、他の ALD 患者と生存率が同じであったため、若くして死亡しているといえる。子孫の慢性肝疾患に対するスクリーニングは不要かもしれないが、アルコール関連の害を軽減するための介入を考慮すべきである。</p>		